

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名			担当室
令和2年度	市単	出産・子育て・教育 地域まるごと応援推進プロジェクト			健康・子育て支援室 ／学校教育室
事業実績額(円)		3,208,695			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	若者定住促進プロジェクト			
	基本的な方向	育ちと学び、人と人をつなげる小中一貫教育の推進/子育てしやすい労働環境整備/安心・安全な子育て環境づくり			
	具体的な施策	産み育てるにやさしいまち「なばり」の実現/「なばりブランド」としての“ひと”づくり～魅力ある教育の推進～			
事業期間		平成30年度～令和2年度			
事業の目的		<p>(1)妊産婦応援事業 妊産婦応援都市宣言の推進のための周知・啓発をはじめ、新たな取組として「こそだてサポーター養成講座」を開催します。子育て教室、おっぱいケア事業、市内16の地域の子育て広場、小中学生に向けた命の教育、子育て支援員研修の受講の動機づけなど、充実した支援ができる体制を整えます。</p> <p>(2)ばりっ子ピカピカ小1学級体験プロジェクト 幼児期から小学校への就学をスムーズに向うことができるようコーディネート役として地域の人材が市内すべての幼稚園等の現場に入り出前授業を実施し、小学校への期待感を持てるように取り組みます。</p>			
全事業期間における本年の位置づけ		計画期間の最終年度として、1年目、2年目の事業実績や状況の見直しを行い、より効果的な事業実施に取り組み、市民総ぐるみで妊産婦や未来を担う子どもを大切に育てるといふ風土の醸成を図り、引き続き様々な施策と連動させるとともに市内外への積極的な情報発信を行うなど、さらなる若い世代の定着や出生率の向上、子育て世代の転入促進を図ります。			
重要業績評価指標 (KPI)	指標		基準値 (H30.3)	R2年度目標値	R2年度実績値
	市外への転出超過の抑制数		101人	前年比 10人抑制	前年比311人増加 (転出超過数461人)
	出産・子育て・教育 地域まるごと応援事業による事業数		15事業	2事業増	増加なし
	子育てサポーターの数		0回	150回増	△3回 (7回実施 560人)
令和2年度の取組概要		<p><妊産婦応援事業> 「こそだてサポーター養成講座」の実施、妊産婦応援都市宣言推進の周知・啓発</p> <p><地域の宝「ばりっ子」応援プロジェクト> (1)ばりっ子ピカピカ小1学級体験プロジェクト 元小学校教員等が「ピカ1先生」となって市内の公立・私立の保育所・園を巡回(年間2回)し、「しっかりとつなぐ育ちのバトンカリキュラム(試行版)」に基づいて保育実践を実施</p> <p>(2)ふるさとなばり推進プロジェクト 小中学校全学年で、ふるさと学習なばり学を活用し、ゲストティーチャーとして地域人材による授業の実施</p>			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和3年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 各保育園では、子ども発達支援センターや医療機関をはじめとした専門機関との連携により、保育士の専門性が高まり、保護者からの信頼度も上がっているように思う。 「ばりっ子ピカピカ小1体験プロジェクト」では、保育園から小学校への「とぎれ」がなくスムーズな移行ができています。もっと回数が増えてもいいと思う。 「ばりっ子ピカピカ小1体験プロジェクト」では、保育園の遊びの中での体験が、小学校の勉強に結びつくことで学校生活に馴染むことができる。 保育園の就園について、自宅から職場までの動線がバラバラなケースがあるので配慮してほしい。 また、シングルマザーは一人で子育てすることで悩みを抱え込んでいるケルがある。 GIGAスクール構想実現事業では、教材であるタブレットの機種も小・中・高のつながが必要である。 また、遠隔事業の実現のため家庭側の通信環境の整備が課題である。 「名張学園祭」のイベントでは、高校生が主体となり進めている。今回は名張にちなんだクイズラリーを企画しており、クイズを作る段階から名張を知るきっかけになっている。 			
	結果の公表	令和3年9月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		有 ・ 無 (時期 : 令和3年8月)			
総合評価		一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名	担当室		
令和2年度	市単	市民総活躍による名張元気継続プロジェクト ～人材を磨き、地域資源を生かし、もの・仕事をつくり、なばりの元気を継続する～	商工経済室		
事業実績額(円)		40,432,000			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	元気創造プロジェクト			
	基本的な方向	就業機会の確保と雇用の創出／地域産業を担う人材の育成／地域産品、地域資源を活用した”名張ブランド”の創出			
	具体的な施策	なばり元気のもとづくり～人材を磨き、地域資源を生かし、もの・仕事をつくり、名張を元気にする～			
事業期間		令和元年度～令和3年度			
事業の目的		<p>新規創業者を増やすことによる経済の活性化を目指しますが、新規創業者が老舗の事業を承継できるような仕組みづくりにも力を入れ、かつ、市外からの移住を含めた新規創業者、事業承継者の獲得を行います。</p> <p>老舗の事業承継については、経営難による廃業も少なからずあるため、老舗の売上増加を行うべく、既存商品のブラッシュアップやパッケージの現代化等で商品の価値を高めて販路を開拓し、売上増を目指します。そのため、現在、多事業で進めている名張ブランド事業と協働し、商品のイメージアップを図ります。</p> <p>また商工業分野だけでなく、農業分野においても「廃業」＝「担い手の減少」、「農業の衰退」となるため、農の事業承継、又は大規模農業者の育成を行います。</p> <p>これらの取組においては、子育て中の女性等の新しい働き方も視野に入れた雇用創出を行っていきます。</p> <p>主に「1.継がれる側の人材育成」「2.継ぐ側の人材育成」「3.事業所の魅力再発見」「4.潜在労働者の掘り起し」の4つを事業の柱として展開していきます。</p>			
全事業期間における本年の位置づけ		1年目で育成した人材等を事業所へつなげられるように取り組んでいく。政策間連携、地域連携を1年目以上に活用し、更なる人材確保、ネットワークの構築に取り組む。自立に向けてスタッフ自身で事業に取組ができるよう進めていく。しかしながら、あらたな顧客獲得は必要のため、1年目と同様にセミナー等は継続して行い、継ぐ人、継がれる人の人材を確保する。2年目については、事業承継ができた、また、できそうな事業所の売上増加を行い、事業所の経営力増加に努める。また、潜在労働力の掘り起こしにも力を入れ、人材の確保に努める。			
重要業績評価指標(KPI)	指標		基準値(H31.3)	R2年度目標値	R2年度実績値
	当プロジェクトによる事業所の営業可能年数の増		0年	20年	128年
	当プロジェクトによる雇用・起業者数		0人	30人	161人
	事業を継ぐ側のセミナー等参加人数		0人	200人	329人
	事業を継がれる側の企業・事業所側の参加数		0事業所	100事業所	290事業所
令和2年度の取組概要		<p>名張市経済好循環推進協議会において、新規創業者が老舗の事業を承継できるような仕組みづくりにも力を入れ、新規創業者、事業承継者の獲得を行いました。その他、子育て中の女性などの新しい働き方を視野に入れ、ワークライフバランスの観点も取り入れた雇用創出を行いました。</p> <p><事業所継続プロジェクト></p> <ul style="list-style-type: none"> 各セミナー(事業承継、農業経営承継、事業承継個別相談、創業支援など)の開催 なばり後継者人材バンク事業の実施 <p><潜在的労働力活用プロジェクト></p> <p>子育て世代労働支援女性セミナー、在宅ワークのためのカメラ講座ほかの開催</p>			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和3年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 新規就農者を獲得するためにも農業に関する発信が必要である。就農を目指している人の後押しができるよう、名張の農業の魅力をわかりやすくシンプルに発信する必要があるのではないか。 若い世代の転出が深刻であるが、学生が市内企業へ目を向ける仕組みが必要である。 子育て世代の女性を雇用する企業側からは「職場に活気が戻った」といった現場の声をいただいている。雇用する企業側には「働きやすい時間帯」「簡単な作業から」など配慮をしてもらう必要がある。 子育て世代の女性の希望職種は「事務職」が多いが、求人は医療・介護が多い。子どもの成長と合わせて職種を変更するなどの工夫をすることでキャリアアップができていく。 シングルマザーは子育てほか複合的な悩みを抱えているケースがあるので、相談体制を整える必要がある。 コロナで大打撃を受けている業種がある。この状況が長期化していることも危機的であるため、この状況がつづくことを想定した「WITHコロナ」の準備しておく必要がある。 			
	結果の公表	令和3年9月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		有 ・ 無 (時期 : 令和3年8月)			
総合評価		地方創生に非常に効果的であった。			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名	担当室	
令和2年度	市単	赤目四十八滝「忍者・自然・精神」ニューツーリズム	観光交流室	
事業実績額(円)		15,999,100		
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	元気創造プロジェクト		
	基本的な方向	地域産業を担う人材の育成/地域産品、地域資源を活用した”名張ブランド”の創出/自然・食・歴史・文化などを活用した観光戦略の推進/シティプロモーションの展開		
	具体的な施策	「訪れてよし」「住んでよし」「招いてよし」の観光都市 名張の実現		
事業期間		令和元年度～令和3年度		
事業の目的		<p>『忍者・自然・精神』をテーマに、国内はもとより、欧米系外国人をターゲットにしたニューツーリズムの創造と実践に取り組みます。新たなコンテンツと既存の観光資源を融合させ、滞在型の「学術研究フォーラム」の開催や「忍者塾」の開講、「忍者修行体験ツアー」など、本市特有の滞在型・体験型の観光商品の造成と観光誘客に取り組みます。</p> <p>また、旧旅館跡の未利用部分を「なばり忍者ミュージアム」として改修し、修験道や忍者をヒストリカルに展示するほか、研修施設としての機能や、バーチャル忍者体験の道場としての機能も整備し、『忍者・自然・精神』ニューツーリズムの発信拠点としての役割を担います。</p>		
全事業期間における本年の位置づけ		2年目は、初年度に確立した新たなコンテンツのプロモーションとセールス、とりわけインバウンドに関しては、周辺観光地も含めた広域的なプロモーションを行っていきます。また、赤目渓谷をフィールドにした滞在型・体験型エコツアールコンテンツの造成と実践に取り組みます。あわせて、初年度に引き続き「(仮称)なばり忍者ミュージアム」の第2期工事を実施します。		
重要業績評価指標 (KPI)	指標	基準値 (H31.3)	R2年度目標値	R2年度実績値
	赤目四十八滝への延べ入込客数	130,000人	前年比 20,000人増	4,507人増 (121,202人)
	赤目四十八滝を訪れた外国人の延べ数	2,500人	前年比 2,000人増	△2,031人 (1,190人/年)
	赤目四十八滝エコツアールデスクでの体験メニュー利用者の延べ数	9,000人	前年比 300人増	△1,189人 (5,279人)
	「(仮称)なばり忍者ミュージアム」への延べ入館者数	0人	前年比 50,000人増	15,857人増 (22,325人)
令和2年度の取組概要		赤目四十八滝渓谷の自然と忍者のルーツや精神など、本市特有の観光資源をいかした観光コンテンツの開発とプロモーションに取り組みました。 ＜主な実績＞「まるごと1カ月忍者修行選手権」、「長坂山回峰行トレッキング」の開催など		
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和3年7月		
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による		
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で観光業界は大打撃を受けている。この状況が続くことを想定し、「WITHコロナ」の準備しておく必要がある。 ・専門性の高い観光商品づくりが必要である。若い世代が参加型の地域おこしや農業体験を組み合わせたもの、また将来的に空き家活用と移住を組み合わせたものなどが考えられる。こうしたところへ、地域づくり組織や商工会議所などの色々な主体が関わることで可能性が広がるのではないかと。 ・国内でストリートピアノが流行しているが、廃校となった学校のピアノを活用して設置してはどうか。近隣市町の先駆けとして設置しては、そこに集まる人同士で生まれる交流も期待できると思う。 		
結果の公表	令和3年9月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		○有 ・ 無 （時期：令和2年8月）		
総合評価		一部のKPIが目標値に達成しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる		
今後の方針	方針	事業の継続		
	理由	計画どおり事業を継続する		

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名	担当室	
令和2年度	市単	多文化共生社会実現事業	地域経営室	
事業実績額(円)		6,029,046		
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	生涯現役プロジェクト		
	基本的な方向	“健康なばり”の推進／世代間交流の促進による地域の元気創造／支え合いの地域福祉の推進／「達成感」や「連帯感」を育む生涯スポーツの推進／多様な生涯学習機会の提供		
	具体的な施策	時代に合った地域づくりと誰もが活躍できる地域共生社会の実現		
事業期間		令和元年度～令和3年度		
事業の目的		<p>名張市人権センター内に「多文化共生センター」を設置し、外国人に対する総合的な支援を行います。市内に居住する外国人の暮らしの現状把握を行い、その現状を踏まえたうえで、あらゆる相談に対応する窓口機能や異文化交流・国際理解の促進のため、地域住民と外国人が交流するサロンの運営や交流イベント、また、専用ホームページの開設やリーフレット等による情報発信を行い、外国人を総合的に支援します。さらに、地域住民、各種団体が主導的に取組めるよう支援を行い、多様な主体が多文化共生社会の実現に向け、取り組むものとなることを目指します</p> <p>また、外国人児童生徒への対応として、市内小中学校で包括的にサポートする役割として、新たに総合サポーターを配置します。</p>		
全事業期間における本年の位置づけ		前年度の事業実績や状況の見直しを行い、より効果的な事業実施に取り組むとともに、さらに事業を拡大、民間事業者との連携を行い、支援の質の向上等を図ることで、地域共生社会のさらなる深化を目指します。		
重要業績評価指標(KPI)	指標	基準値(H31.3)	R2年度目標値	R2年度実績値
	外国人住民数の維持	0人	前年比 10人増	75人減
	多文化共生センターの延べ利用者数	0人	前年比 300人増	1,095人増
	地域が主体となって実施する外国人との交流事業の開催回数	0回	前年比 4回増	増減±0 (1回実施)
令和2年度の取組概要		<p><多文化共生センター> 居場所・ネットワークづくり、異文化交流、国際理解の促進、新型コロナウイルス感染症に関する情報提供など</p> <p><学校における外国人児童生徒サポート事業> 外国人児童生徒に対し、日本語を理解して学習に取り組めるようになるための日本語指導や、学校生活を安心して過ごせるための支援を実施</p>		
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和3年7月		
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による		
	主な意見	<p>・色々な組織が各々で名張の魅力を発信しているが、共通のスローガンがあればアピールしやすいのではないかと。これまでの取組で「社会から排除される人はつづらない、誰一人取り残さない、社会のしんがりは名張にまかせろ」として発信されてるとのことであるが、ほかにもインパクトが強いスローガンがあればいいと思う。</p> <p>・コロナで大打撃を受けている業種がある。この状況が長期化していることも危機的であるため、この状況が続くことを想定した「WITHコロナ」の準備をしておく必要がある。</p>		
結果の公表		令和3年9月以降 ホームページで公表予定		
市議会による効果検証の有無		○有 ・ 無 (時期 : 令和3年8月)		
総合評価		地方創生に非常に効果的であった。		
今後の方針	方針	事業の継続		
	理由	計画どおり事業を継続する		

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名	担当室		
令和2年度	市単	協働循環型社会を目指す東奈良名張「竹灯り」SDGsプロジェクト	観光交流室		
事業実績額(円)		7,859,840			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	元気創造プロジェクト			
	基本的な方向	地域産業を担う人材の育成/地域産品、地域資源を活用した”名張ブランド”の創出/自然・食・歴史・文化などを活用した観光戦略の推進/シティプロモーションの展開			
	具体的な施策	「訪れてよし」「住んでよし」「招いてよし」の観光都市 名張の実現			
事業期間		令和2年度～令和4年度			
事業の目的		<p>・環境保全活動である竹林整備で間伐された竹を再利用して竹灯りを作り、赤目四十八滝をはじめとする景勝地でのライトアップイベントの開催により、当該取組の観光商品化を目指し、観光誘客による経済の活性化を図ります。また竹灯りの製作に地域の子どもや地域住民を巻き込むことで、環境教育や郷土愛の醸成、地域住民の生きがいや新たな居場所づくりや健康づくりにつなげます。</p> <p>これらの取組により、観光コンテンツを事業主と地域が協働して作りあげる「観光まちづくり」の実現、さらには観光収益を地域に還元させ、社会(教育)、環境(資源)、経済(観光産業)が循環する「持続可能な社会」の構築につなげます。</p> <p>・「竹灯りプロジェクト」をはじめ、圏域内の様々な観光資源を含めたインバウンド向けのプロモーションを行い外国人誘客に取り組みます。</p>			
全事業期間における本年の位置づけ		観光協会等による推進組織を設立し、一連の事業スキームと関係者間のネットワークの構築を行い、一連の事業スキームと関係者間のネットワーク構築を行います。11月からは赤目四十八滝溪谷に竹灯りを設置し試行的にイベントを開催し、これに向けた竹灯り製作のワークショップを行います。これらの観光商品化を目指した国内外旅行エージェントへの直接的な情報発信を行うとともに、観光関連事業者等を対象としたインバウンド受け入れのためのセミナーを開催しスキルアップを図ります。			
重要業績評価指標(KPI)	指標		基準値(R2.3)	R2年度目標値	R2年度実績値
	名張市・市陀市・曾爾村・御杖村・山添村・東吉野村の延べ観光入込客数		3,416,508人	前年比 5,000人増	△854,863人 (2,561,645人)
	赤目四十八滝を訪れた外国人の延べ数		2,904人	前年比 50人増	△2,031人 (1,190人/年)
	竹林整備及び竹灯りワークショップへの延べ参加者数		0人	前年比 50人増	140人増
令和2年度の取組概要		持続可能な協働循環社会の構築による地域振興と観光誘客に取組む「なばり竹あかりSDGsプロジェクト」をスタートさせ、「赤目溪谷幽玄の竹灯」を開催 <主な実績>竹あかりづくり体験ワークショップの開催など			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和3年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で観光業界は大打撃を受けている。この状況が続くことを想定し、「WITHコロナ」の準備しておく必要がある。</p> <p>・専門性の高い観光商品づくりが必要である。若い世代が参加型の地域おこしや農業体験を組み合わせたもの、また将来的に空き家活用と移住を組み合わせたものなどが考えられる。こうしたところへ、地域づくり組織や商工会議所などの色々な主体が関わることで可能性が広がるのではないかと。</p> <p>・本市の観光資源は、町並みや歴史的建造物などもある。人の生活がしっかりと成り立っているにもかかわらず、美しいまち並みや水路などはとても趣がある。結果的に残ってきたものであっても国などの財源を確保して残す手立てを考えてはどうか。また、これらの歴史的な町並みに近大高専の調査が入っているが、こうした若い人が調査に携わっていることもPRIになるので、もっと光があたるよう発信したらいいと思う。</p>			
結果の公表		令和3年9月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		○有 ・ 無 (時期 : 令和3年8月)			
総合評価		地方創生に非常に効果的であった。			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名			担当室
平成30年度	市単	赤目チャレンジステーション整備事業			観光交流室
事業実績額(円)		63,878,000			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	元気創造プロジェクト			
	基本的な方向	地域産品、地域資源を活用した”名張ブランド”の創出/自然・食・歴史・文化などを活用した観光戦略の推進/シティプロモーションの展開			
	具体的な施策	多様な世代の転入促進を図る情報の発信及び移住に関する相談受入体制の強化 「訪れてよし」「住んでよし」「招いてよし」の観光都市 名張の実現			
事業期間		平成30年度			
事業の目的		赤目四十八滝キャンプ場として利用していた施設を様々なニーズに対応すべく「赤目四十八滝チャレンジステーション」として幅広い用途に利用できるよう機能向上を図るための新築・改修整備を行い、自然体験・移住体験はもとより、都市部住民の農山村体験や、大学のフィールドワークの受入にも対応できるよう整備を行います。 整備内容は、ベッドや空調設備を設置した宿泊棟4棟を新築し、調理等に外壁を設置します。			
重要業績評価指標(KPI)	指標		基準値(H31.3)	R2年度目標値	R2年度実績値
	赤目四十八滝チャレンジステーションにおける研修を終えた新規就農者数		0人	前年比 1人増	0人
	赤目地域への年間転入者数		55人	前年比 4人増	△20人
	赤目四十八滝チャレンジステーションの年間利用者数		3,306人	前年比 100人増	△1,828人
平成30年度の取組概要		赤目四十八滝キャンプ場を幅広い利用用途に衣替えし、「赤目四十八滝チャレンジステーション」として整備を行いました。移住体験、農林業体験はもとより、都市部に住む子供たちの農山村体験の実施や、大学生によるフィールドワークの受入等に対応するため、宿泊棟、調理等を再整備し、機能向上を行いました。			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和3年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・専門性が高い観光商品づくりが必要である。「観光」という題材で、若い世代が参加型の地域おこしや農業体験を組み合わせたもの、また、将来的に空き家活用と移住を組み合わせたものなど、色々と可能性があると思う。 ・地域づくりに携わっている人が、いかに若い世代を引き寄せて協働で物事を進めていけるか。赤目地域など、若い世代が地域づくりに参加して、うまく進んでいるところもあると思う。 ・コロナで大打撃を受けている業種がある。この状況が長期化していることも危機的であるため、この状況が続くことを想定した「WITHコロナ」の準備をしておく必要がある。 			
結果の公表		令和3年9月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 (時期 : 令和3年8月)			
総合評価		地方創生に相当程度効果があった			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名			担当室
平成29年度	市単	起業・創業拠点整備プロジェクト			商工経済室
事業実績額(円)		78,486,840			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	①元気創造プロジェクト／②若者定住促進プロジェクト			
	基本的な方向	①就業機会の確保と雇用の創出／地域産業を担う人材の育成／地域産品、地域資源を活用した”名張ブランド”の創出 ②移住・定住の促進と支援／子育てしやすい労働環境整備／安心・安全な子育て環境づくり			
	具体的な施策	①なばり元気のもとづくり～人材を磨き、地域資源を生かし、もの・仕事をつくり、名張を元気にする～ ②産み育てるにやさしいまち”なばり”の実現／「なばりブランド」としての”ひと”づくり～魅力ある教育の推進～			
事業期間		平成29年度			
事業の目的		<p>本市特産品の“ぶどう”の知名度を生かし、ワイン等の製造・販売を契機に地域経済の活性化を目指す『名張市リカーチャレンジ特区（内閣府認定 平成27年6月30日）』の具現化、また、醸造用ぶどうの栽培からワインの生産・販売といった新たな取組にチャレンジし、“ぶどう”のブランド力強化、さらには本市における6次産業のモデルとして、新規就農や起業・創業の促進、地域内雇用の拡充を図るため、閉校小学校を整備し、起業・創業支援に向けた次の取組を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワインの製造拠点として整備し、ワインの熟成及び保管を行う。当施設については、ワイン製造拠点のため販売店での販売がメインになる。ブドウの種類や熟成期間等により価格も異なるが、1本あたり1,000円～3,000円の価格帯で販売を行う予定。原料のブドウについても名張で栽培から行い、ブドウの生育には数年を要することから徐々に生産量を上げていき、それに伴い収入も増える。まずは、3年後の売上金額14,000千円を目指す。 ・教室を事務所として整備し、レンタルオフィスやインキュベーションオフィスとして使用する。当施設は商工会議所等が出資する法人組織が管理主体となる予定であり、そのため商工会議所が起業相談窓口となりレンタルオフィスやインキュベーションオフィスに案内することができる。加えて、案内後も起業事業者の状況が把握できるため様々な支援を行えるメリットがある。支援については、事業者の要望により異なるが、市も協力し、基本的には金融機関やその他関係施設へのつなぎや、アドバイザーへのつなぎ等を行う。また、レンタルオフィス、インキュベーションオフィスについては、”創業のきっかけとなるための場の提供”という位置づけのため、利用金額を定額に設定（月1万円～5万円／1事務所）し、事業の負担にならないようにし、事業が軌道に乗ることを優先とする。また、家庭科室等を加工食品の製造ができるよう整備し、地域資源等を活用した6次産業の拠点とする。加工施設についても起業者についてはレンタルオフィスやインキュベーションオフィスと同様の支援を行うとともに、地域のイベントや地域の産品を使った商品作成の拠点となるような利用を行う。 			
重要業績評価指標 (KPI)	指標		基準値(H28.3)	R2年度目標値	R2年度実績値
	交付対象事業の取組による雇用創出件数		—	前年比 75件増	161件増
	とれたて名張交流館(直売所)及び拠点整備施設利用業者の売り上げ金額		1億1,859万円	前年比 700万円増	△184万円
	プロジェクト協力事業所数		—	前年比 25事業所増	290事業所増
平成29年度の取組概要		<p>・旧国津小学校の校舎を改修し、新規就農や起業・創業の促進、6次産業化の拠点として地域内雇用の拡充を図るため、ワイナリー施設としての整備、またレンタルオフィスやインキュベーションオフィスとして使用できるよう、空き家教室を事務所として整備しました。</p>			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和3年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の転出抑制より、Uターン、Iターン獲得のため、名張でどんな仕事ができるか、どれだけ稼げるかを発信するのも必要である。 ・若い世代の転出が深刻であるが、近大高専においても市内の就職が約1/10程度、県内になると1/4程度である。今後も市内での就職が増えるよう市内の企業にもっと目を向ける仕組みが必要である。 ・コロナで大打撃を受けている業種がある。この状況が長期化していることも危機的であるため、この状況が続くことを想定した「WITHコロナ」の準備をしておく必要がある。 			
	結果の公表	令和3年9月 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 (時期 : 令和3年8月予定)			
総合評価		地方創生に相当程度効果があった。			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名			担当室
平成29年度	市単	名張市市民活動活性化ゾーン形成計画			地域経営室
事業実績額(円)		44,760,400			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	①生涯現役プロジェクト			
	基本的な方向	①健康なばりの推進/世代間交流の促進による地域の元気創造/支え合いの地域福祉の推進/「達成感」や「連帯感」を育む生涯スポーツの推進/多様な生涯学習機会の提供			
	具体的な施策	②時代に合った地域づくり、安心・安全な暮らしを守る			
事業期間		平成29年度			
事業の目的		<p>(施設の目的)</p> <p>「名張地区まちづくり推進協議会」(以下、協議会)は、名張市民センターの指定管理を受け、市民センターに拠点を置き、地域内で様々な実行組織をコーディネートしながら、地域ビジョンの達成に向けて活動を続けています。また、名張市は、平成28年4月1日から公民館を市民センターに転換しました。これは、施設において営利事業や営利を伴う飲食など市民の自由な発想による活用を可能としました。地域内の各種事業者と住民との協働による様々な起業や情報発信をすることで雇用創出、移住者増加などに繋がることが期待されているところです。</p> <p>名張地区では、古来、街道の要所や観阿弥創座の地であったことから、様々な文化や伝統が行き交うまちとして発展してきました。このような「地の利」を活かし、協議会は、地域住民のみならず、他地域の住民や観光客等が足を運ぶことで、さらに地域活力の活性化、地域内経済の循環を生む多機能施設に進化させることを目的とします。</p> <p>(実施予定の事業)</p> <p>市民センター別館の和風建築を生かした「『食べてだあこ』おもてなし事業」は、協議会が実行組織を立ち上げ、運営しながら、将来的には地元野菜等を使ったレストランの経営に繋がっていくことも視野に入れています。また、障害者が製造したパンやお菓子の常時販売コーナーの設置、周辺農村地域との交流による地産地消市場の運営、市民センターの登録サークル等による手作りの雑貨や個人による「ショップ『よってだあこ』」の実施等、地域づくり組織が主体となることで住民発案の事業が具体的に実行できます。</p> <p>※拠点での実施事業による売上見込み：事業開始年度3,600千円(次年度以降は、前年度売上の3%増)</p>			
重要業績評価指標(KPI)	指標	基準値(H28.3)	R2年度目標値	R2年度実績値	
	拠点での実施事業による売り上げ	—	100万円増	△184円(469万円)	
	ショップ『よってだあこ』の参加によって起業につながった件数	—	1件増	0件	
	ショップ『よってだあこ』に参加する市民団体の数、お菓子事業への協力事業者数	—	5団体増	△2団体(3団体)	
平成29年度の取組概要		<p>・名張市民センター別館(旧高北邸)について、耐震補強、トイレ改修、厨房、事務室等の改修工事を行い、和風建築を生かした「『食べてだあこ』おもてなし事業」として、まちづくり協議会が実行組織を立ち上げたカフェの運営に向け、経営活動の拠点としてふさわしい施設の整備を行いました。</p>			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和3年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりに携わる方々の中心が75歳以上で、60歳代でもなかなかいない。次の世代をどう獲得するかが深刻である。 ・住宅地においても転入者が40代のファミリー層が多いが、自治会へもお願いしてやっと加入してもらっている状態であり、個人情報保護の点などから世代で考え方も違うのを感じる。 ・地域づくり組織と目的別団体との連携や若者が中心となった取組でも好事例がある。「第1回名張学園祭」では高校生もメンバーとなり地域の方に高校の部活動を知ってもらう機会となり、学校の枠を超えた地域活性化のイベントとなった。 ・コロナで大打撃を受けている業種がある。この状況が長期化していることも危機的であるため、この状況がづくことを想定した「WITHコロナ」の準備をしておく必要がある。 			
	結果の公表	令和3年9月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 (時期 : 令和3年8月予定)			
総合評価		地方創生に効果があった。			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			

効果検証シート

実施年度	交付金の種類	事業名			担当室
平成29年度	市単	市民総活躍を叶える”元気・交流”拠点整備事業			市民スポーツ室
事業実績額(円)		47,798,120			
総合戦略での位置づけ	プロジェクト名	③生涯現役プロジェクト			
	基本的な方向	①健康なばりの推進/世代間交流の促進による地域の元気創造/支え合いの地域福祉の推進/「達成感」や「連帯感」を育む生涯スポーツの推進/多様な生涯学習機会の提供			
	具体的な施策	①「ともに生きる ともに創る 心ふれあう幸せのまち 名張」の実現			
事業期間		平成28年度～平成30年度			
事業の目的		<p>名張市は、フィールドホッケー（以下「ホッケー」という。）の振興によるまちづくりに注力すべく、平成28年度に独自で市民陸上競技場の芝生化の実施や、子どもを対象としたホッケー教室の開催などを行ってきました。</p> <p>平成29年4月には新たにホッケー協会を設立し、完成したフィールドでは、奈良県の強豪チームの天理大学と南都銀行のエキシビジョンマッチも計画しています。また、ほかに名古屋フラートルホッケークラブや三重クラブ（鈴鹿市）など本市の周辺にはホッケーの有力チームが所在しており、今後こうした有力チームの公式大会や強化合宿を受け入れていくには、既に完了したフィールドの整備にくわえ、ミーティングルームの新設やロッカールームの機能向上などの環境整備が必要不可欠となります。</p> <p>今回の改修では、こうした環境を整えるべく当該競技場の観客席下の模様替えを行い、ミーティングや研修に利用可能な部屋の新設と、これにあわせたロッカールームやトイレの機能向上、さらにはフィールド脇の空スペースを利用してイートインやケータリング、グッズ販売等、大会やイベントに対応できる多目的スペースの新設を行います。その結果、出場選手や観戦客等、これまで見込むことのできなかった新たな誘客と地域経済の活性化、施設利用者や使用料収入の増加に大きく寄与し、現状と比較して、施設利用者及び使用料収入について約2倍の増加を見込みます。</p> <p>また、現在、地方創生推進交付金により進めている「市民総活躍による『なばり元気のモトづくり』プロジェクト」における健康づくり（ソフト事業）の取組の拠点施設として活用することで、より一層の利用向上と市民がいつまでも健康で活躍できる生涯現役のまちづくりを目指します。</p>			
重要業績評価指標 (KPI)	指標		基準値(H29.3)	R2年度目標値	R2年度実績値
	拠点施設の使用料収入		162万円	前年比 30万円増	△12.8万円 (226.4万円)
	拠点施設の利用者数		27,131人	前年比 2,000人増	△2,549人 (45,625人)
	市外からの合宿等の受け入れ数		3件	前年比 10件増	△36件 (296件)
平成29年度の取組概要		<p>・ミーティングルームの新設、ロッカールームやトイレ機能向上、さらには、大会やイベントに対応できるよう、フィールド脇の空スペースを利用して多目的スペースを新設し、新たな誘客と地域経済の活性化、また施設利用料の増加に繋がるよう整備を行いました。</p>			
外部有識者による効果検証	検証の時期	令和3年7月			
	検証の体制	名張市地域活力創生会議による			
	主な意見	<p>・名張の良さは利便性。国道沿いで生活に必要な買い物全て揃う。「生活に便利なまち」というだけでは地味なアピールになるかもしれないが、名張市での1日の生活のモデルケースを具体的に示して利便さを伝えられればいいと思う。</p> <p>・コロナで大打撃を受けている業種がある。この状況が長期化していることも危機的であるため、この状況がつづくことを想定した「WITHコロナ」の準備をしておく必要がある。</p>			
	結果の公表	令和3年9月以降 ホームページで公表予定			
市議会による効果検証の有無		<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 （時期：令和3年8月予定）			
総合評価		KPI達成状況は芳しくなったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる			
今後の方針	方針	事業の継続			
	理由	計画どおり事業を継続する			